

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520653

研究課題名（和文）19 世紀日本関係古写真の調査収集と解析による年次的研究

研究課題名（英文）Historical research in the investigation collection and analysis of old photographs related to Japan in the 19th century

研究代表者

谷 昭佳（TANI AKIYOSHI）

東京大学 史料編纂所・技術専門職員

研究者番号：70532670

研究成果の概要（和文）：国内外の 19 世紀の日本関係古写真コレクションを対象に、出所・伝来が明確で撮影者や撮影状況、入手経路がはっきりするなど、写真史料の基軸標本となりうるコレクションを発掘して系統的な調査を行い、デジタル画像の収集と書誌データの作成を行った。これにより、これまでの古写真の鑑定基準に代わって、一定の歴史科学的な根拠を確定することができた。とくに在外日本関係古写真は、本邦未公開のものがほとんどであり、この成果は写真史・日本史双方の学界に大きく貢献することができる。

研究成果の概要（英文）：A study and collection of photographs related to Japan in the 19th century in Japan and overseas. The result has been to collect and catalog digital images and text information. Those catalogs are based on the source of a photograph, introduction of a photograph, a photographer and a photography situation, and the clear information on an acquisition route. This research can contribute to the academic world of the history of a photography, and history of Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：史料学・古写真史料学

## 1. 研究開始当初の背景

従来の古写真研究は、いわゆる狭義の写真史や写真技法の研究として行われることが多かったが、本研究は東京大学史料編纂所の歴史研究者をまじえ、古写真を歴史史料として取り扱い、系統的なデータ収集と解析、さ

らに古写真の諸要素、年次確定のための作業の一環として行うところに研究の大きな意義があった。

## 2. 研究の目的

国内外の日本関係古写真コレクションを対

象に、撮影者や撮影年代確定のための年次標本(古写真の年代特定による写真史年表)の作製をめざし、基本的かつ特徴的なコレクションを新たに発掘してデジタル画像収集と解析、データベース化を行うことを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1) 海外所在日本関係古写真の調査・収集：すでに用意した所在情報および予備調査の結果にしたがって優先順位をつけ、イギリス・オランダ等に出張してコレクションのデジタル撮影による収集と解析をおこなう。

(2) 国内所在の古写真コレクションの調査・収集：これまでに継続的に調査を行っている旧佐賀藩主鍋島家コレクション(鍋島報効会徴古館)でデジタル撮影の継続とメタデータ(目録)作成作業をおこなう。また、伊豆葦山代官江川太郎左衛門家コレクションの調査を文化庁の支援をうけて静岡県が行っている江川文庫重要文化財指定のための調査に協力するかたちでおこなう。また新規に、函館の高田屋嘉兵衛家コレクションに関連する横山松三郎関係古写真の調査をおこなう。

### 4. 研究成果

申請時に用意した国内外の所在情報および調査の過程で新たに発見された日本関係古写真コレクションについて、優先順位をつけ以下のデジタル画像を収集した。また調査の成果を古写真研究会・古写真展示会を開催し、広く公表した。

#### (1) [海外]

・オランダ：陸軍博物館所蔵 19 世紀写真技術書の書誌調査及びデジタル撮影し、画像データ 371 点収集。貨幣博物館所蔵文久二年竹内遣欧使節団アルバムと使節団ネームリストを調査・デジタル撮影し、画像データ 64 点収集。Gelderland 図書館所蔵 van den Broek コレクションの書誌調査及びデジタル撮影し、画像データ 754 点収集。オランダ海洋博物館所蔵 Polsbroek 写真アルバムの調査・顕微鏡を利用したプリント技法解析を行い、顕微鏡画像データ 54 点収集。収集した日本関係古写真画像データは、いずれも本邦未紹介のものである。王立図書館所蔵マイクロフィルムより、19 世紀の写真技術書 GUSTAVE LE GRAY「PRACTICAL TREATISE ON PHOTOGRAPHY UPON PAPER AND GLASS」の書誌情報を入手。その後の研究で、本書は史料編纂所所蔵の国宝島津家文書にある、島津斉彬が実際に使用したと考えられる「写真鏡小説第二編」の原著であることが判明した。

・イギリス：大英図書館所蔵 Wilhelm Burger

コレクションを調査し、画像デジタルデータ 57 点を収集。王立アジア協会所蔵 Howell コレクションを調査・デジタル撮影し、画像データ 264 点収集。大英博物館所蔵 Beat アルバム、Stillfried アルバム、The Japan Punch を調査・デジタル撮影し、画像データ 500 点収集。日本協会所蔵の古写真のうち Beato コレクションなどを調査し、画像データ 105 点を収集。ロンドン大学の Du Pin コレクション 37 点の画像データを収集。国立文書館において、ロシエ撮影の長崎パノラマ写真について顕微鏡撮影し、プリント技法の鑑定調査を行った。

・ドイツ：ミュンヘン市立博物館、ミュンヘン州立民族学博物館において、日本関係古写真の所在調査を行った。その結果、ミュンヘン市立博物館には横浜写真を中心とするコレクションがあり、ミュンヘン州立民族学博物館には、Stillfried の初期写真アルバムが数点収蔵されていることが確認できた。なかでも、Stillfried が北海道を撮影したシリーズには、日本人によるテキストも加えられていることから、今後の更なる調査により新知見が得られることが期待される。

・オーストリア：オーストリア国立図書館において、1869 年(明治 2)に来日したオーストリア・ハンガリー帝国東アジア遠征隊の随行写真家 Wilhelm Burger が、帰国後の 1871 年に皇帝フランツ・ヨーゼフ 1 世に奉呈した写真アルバムとオリジナル湿板写真ネガからなる写真コレクションの画像データ 247 点の収集と技法調査を行った。その結果、Burger コレクションには Burger が自ら撮影した写真ネガだけでなく、日本国内には多くは現存しない長崎の上野彦馬や横浜の下岡蓮杖の湿板写真ネガ原板が多数含まれていることが、現像技法の違いから明らかとなった。この成果は、2011 年 11 月 23 日の朝日新聞朝刊文化欄において紹介されるなど、社会的にも関心が持たれており、今後の更なる調査研究が期待されるものである。Burger の弟子である、Moser の日本関係湿板写真ネガコレクション 247 点のデジタル化と技法調査をバートアウスゼー市のカマーホフ博物館にて行った。その結果、日本発の写真入り英字新聞『The Far East』のネガ、また 1873 年のウィーン万博出品品を撮影したネガなど、使節団の離日後も一人日本に留まり Moser 自身が撮影・収集したネガからデジタル反転処理することにより、明治初期の日本の姿を鮮明な画像として蘇らせることができた。この成果は、2012 年 1 月 29 日の朝日新聞朝刊社会欄において紹介された。その他に、オーストリア国立工芸美術館付属図書館・ウィーン国立民族学博物館において、明治初期の日本

関係古写真の調査を行い、各機関のコレクションの概要を把握した。

・スイス：ヌーシャテル民族学誌博物館の調査を行い、1863年に条約締結のために来日したスイス特派使節アンペール Aimee Humbert のコレクションのデジタル化と目録化を図った。アンペールは条約締結後に帰国し、1870年に“Le Japon Illustre (日本図絵)”を出版したことで有名である。『日本図絵』は、476点におよぶ豊富な挿入図版で知られ、西欧各国で幕末の日本と日本人に関するイメージを形づくって来た。その挿入図版のものは、未整理の古写真145点とアンペールにより博物学的に分類された画像資料2631点である。

・ロシア：クンストカーメラ（ロシア科学アカデミー民族学人類学博物館）で本邦未公開の19世紀海軍提督ポポフの古写真コレクション147点を調査した。海軍中央博物館において、モジャイスキーが写真をもとに描いた日本関係絵画コレクション28点の調査を行った。

## (2) [国内]

・伊豆菰山江川文庫（幕府代官江川太郎左衛門）の古写真調査をおこない、新規収集データ1957点を整理して、書誌データを作成。その内容は、静岡県教育委員会発行『江川文庫古文書史料調査報告書7』に反映された。

・旧佐賀藩主鍋島家コレクション（鍋島報効会徴古館）でデジタル撮影の継続とメタデータ（目録）作成作業をおこない、新規に1255点のデータを得た。

・鹿児島尚古集成館において、カロタイプとされる鶴丸城紙ネガに対して顕微鏡撮影を行い、これまで実証されていなかった技法を塩化銀紙であると特定した。

・市立函館博物館、函館市中央図書館において、横山松三郎関係古写真の調査撮影を行い、139点の画像データを収集した。

## (3) [古写真研究会]

・オランダ海洋博物館ヨーストスホーケンブルック主任学芸員「東への窓-ポルスブルックの日本外交1857-1869」2009年6月に開催した。

・ボン大学ペーター・パンツァー名誉教授「視覚資料に見る明治時代の日独・日墺関係について」2009年11月に開催した。

・公開研究会「江川文庫古写真コレクション

調査報告」を2010年12月に東京大学史料編纂所大会議室において、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センターと共催し、文化財指定を視野に入れた調査研究の成果を公表した。参加者は学内外から約50名であった。

## (4) [古写真展示会]

・2012年2月20～21日に、史料編纂所展示ホールにおいて「オーストリアの写真家モーター・コレクション展-ガラスネガから復元する明治初期の日本-」展を東京大学史料編纂所附属画像史料解析センターと共催した。見学者は学内外から約420名であった。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

[雑誌論文]（計9件）

- ①谷昭佳、文久二年遣欧使節団関係古写真の年次的研究 その二-プロシア滞在時の写真を中心にして-、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、47巻、2009、9-15、
- ②谷昭佳、ジョン万次郎の写真活動と江川家旧蔵古写真について、歴史読本、査読無、55巻7号、2010、7-20、190-197、
- ③谷昭佳、初期紙焼写真の系譜 その1-薩摩藩の写真術研究-、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、49巻、2010、9-13、
- ④谷昭佳、田中里美、Wilhelm Burger のガラス写真原板に関する調査報告、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、52巻、2011、1-11、
- ⑤谷昭佳、Abel Gower のガラス湿板ネガ原板に関する考察-Wilhelm Burger の写真コレクションから-、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、55巻、2011、10-16、
- ⑥Tani Akiyoshi、Peter Pantzer、Wilhelm Burger's Photographs of Japan: New Attributions of his Glass Negative Collection in the Austrian National Library、PhotoResearcher: The magazine of the European Society for the History of Photography、査読無、15巻、2011、40-50、
- ⑦保谷徹、江川英武の米国留学中写真-伊豆菰山・江川文庫古写真調査報告-、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、55巻、2011、2-9、
- ⑧保谷徹、古写真目録解題、江川文庫古文書史料調査報告書-古写真・染-、査読無、7巻、2011、151-159、

[学会発表]（計4件）

- ①谷昭佳、在外資料による初期日本写真史の再考-在蘭史料を中心にして-、日本写真芸術学会、2009年6月13日、東京工芸大学

芸術情報館、

- ②谷昭佳、Muller コレクションに見る下関戦争関係写真-BeatoとBauduinを中心にして-、日本写真芸術学会、2009年11月7日、九州産業大学、
- ③谷昭佳、初期紙焼写真の系譜、日本写真芸術学会、2010年6月12日、東京工芸大学芸術情報館、
- ④谷昭佳、幕末・明治初期に来日した中欧使節団の古写真コレクションについて、日本写真芸術学会、2011年6月11日、東京工芸大学芸術情報館、

[その他]

新聞報道

- ①静岡新聞夕刊、2010年4月10日、「ジョン万次郎撮影の古写真」、
- ②朝日新聞文化欄、2011年11月23日、「維新期のネガウィーンに先人の写真技術貴重な史料」、
- ③朝日新聞社会面、2012年1月29日、「文明開化くっきり、写真家の遺品136点オーストリアで発見」、

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

谷 昭佳 (TANI AIYOSHI)  
東京大学・史料編纂所・技術専門職員  
研究者番号：70532670

### (2) 研究分担者

保谷 徹 (HOYA TORU)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：60195518  
箱石 大 (HAKOISHI HIROSHI)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：60251477

### (3) 連携研究者

吉田 成 (YOSHIDA AKIRA)  
東京工芸大学・芸術学部・教授  
研究者番号：90367285  
石川 寛夫 (ISHIKAWA HIROO)  
九州産業大学・芸術学部・教授  
研究者番号：40104864  
高橋 則英 (TAKAHASHI NORIHIDE)  
日本大学・芸術学部・教授  
研究者番号：10188039

### (4) 研究協力者

川上 力 (KAWAKAMI TUTOMU)  
九州産業大学・芸術学部・非常勤職員  
宮田 奈々 (MIYATA NANA)  
ボン大学  
ペーター・パンツァー (PETER PANTZER)  
ボン大学名誉教授